



令和6年度事業報告及び決算



少子高齢化や人口減少の影響が顕在化し、家庭や地域コミュニティのかたちに変化するなか、地域福祉の役割は、住民同士の相互扶助に加え、多様な境遇や価値観に対応した個別支援が欠かせないものとなりました。

こうした社会背景のもと、令和6年度から第3次地域福祉活動計画に基づく活動がスタートし、ひきこもり支援事業、認知症カフェ事業、法人後見事業及び地域密着型通所介護事業などの社会ニーズに対応する事業に取組み、対象者の個別支援と実態把握に努めました。

また、住民と地域団体や企業とのつながりをつくり、安心や生きがいの創出を図るため、地域助け合い活動推進協議体の連携強化や、健康麻雀教室の実施など、対象者のみならず担い手同士の相乗効果に着目した、新しい事業展開にも努めました。

主な取組みと事業

- | | | |
|-------------------------------|--------------------------|-----------|
| 1 地域福祉活動の推進 | 5 受託事業の実施
(指定管理施設の経営) | 9 福祉情報の発信 |
| 2 ふれあいのまちづくり事業 | 6 介護保険事業等の経営 | |
| 3 共同募金事業、
歳末たすけあい運動の推進及び協力 | 7 善意銀行の運営 | |
| 4 受託事業の実施(福祉事業) | 8 福祉資金貸付事業 | |

○法人運営に係る取組

役員及び評議員の定数と選任区分の再編
定年の引上げと役職定年制の導入

○被災地支援

能登半島地震被災地への職員派遣等(2人)
災害義援金の送金

○つながるフェスティバルの開催

人と人、人と社会等のゆるやかなつながりづくりを
目的に、子持と赤城の2会場で交流イベントを開催
(11/10開催、協力団体131団体、来場者約6,000人)

○ひきこもり居場所づくり事業(新規)

市受託事業として、ひきこもり状態にある人の居場所や
社会との接点づくり、就労支援及び当事者会の実施
(実利用者数10人、延べ利用回数547回)

○だれでも広場事業の多様な取組

世代間交流広場としての機能に加え、全国からの寄付
物品を活用し様々なイベントの実施や、ひきこもり当事
者や不登校児童・生徒等、多様な人たちへの居場所提供
を行った(314日開所、11イベント開催、年間来場者
35,581人)

○認知症オレンジカフェ事業

認知症高齢者及びその家族等の居場所づくり推進の
ため「認知症オレンジカフェ」を開催し、仲間づくりや
ネットワークづくり支援と、認知症介護者の悩み相談の
受付などを行った(開催日数13日、延べ参加者数182人)

○フードロス削減事業(新規)

寄付された食品を生活に困窮する人に提供(提供56件)
また、企業から流通経過における破損品を受入れた

○健康麻雀交流会事業(新規)

ギャンブル性のない健康麻雀交流会を実施し、高齢
者の交流機会の創出や健康づくりを推進
(開催日数19日、延べ参加者数375人)
また、民間企業と連携した「新春健康マージャン教室」
を開催(参加者数44人)

○災害ボランティア支援体制整備

シナリオ非公開型による図上訓練を実施し、災害発生時
における災害ボランティアセンターの運営訓練を実施した

○地域密着型通所介護事業(新規)

渋川市小野上デイサービスセンターの運営形態を変
更し、作物の栽培や手芸作品の販売などの付加価値の創
出や、地域と密接した施設経営の推進
(1日平均利用者数14.8人)